





### 明治時代に日本へやって来たキャベツ

嬭恋の高原には「黒ボク土」と呼ばれる火山灰土壌が広がっています。火山噴火に由来する土壌は、水はけがよくとも農業には不向きでした。しかし、先人たちは適地適作への模索を繰り返しました。冷涼な場所で作つジャガイモ栽培は江戸時代から始まり、ジャガイモ澱粉から片栗粉を生産しました。

明治時代に入り、新政府によって白菜、落花生、リンゴといった野菜や花卉類とともに、ヨーロッパ産のキャベツ(和名は玉葉、中国名は甘藍)が導入されました。そして日本各地でキャベツ栽培が始まっていったのです。



顕彰碑(戸部彪平) 顕彰碑(塚田国一郎) 顕彰碑(青木彦治)

### キャベツ栽培を切り拓いた3人の先駆者

昭和初期、嬭恋村は日本一貧しい村とさえいわれていました。そんな村を高原野菜の村として発展させた3人の功労者がいます。戸部彪平、塚田国一郎、青木彦治です。彼らは、村を「野菜栽培1本で食べていける村にする」と提案。一軒一軒を回り、村民を説得してきました。当時の村長であった戸部は鳥居峠から長野県への道路整備を実行、群馬県中之条町の農業技術指導員の塚田は栽培技術の面から指導、長野県上田市の青果業を営む青木は販路の拡大に奔走しました。

田代地区を中心にキャベツ栽培が本格的になるのは、昭和7年(1932)頃といわれています。こうして、キャベツを中心とする高原野菜で知られる嬭恋村の礎が築かれていきました。

# 農業と観光の村が生まれるまで



### 戦後の食糧難でジャガイモ、食の洋風化でキャベツの増産

戦後の食料政策の中で、国営により健全無病のジャガイモの原産種生産を行うための農場が全国8か所に設置されました。その一つ、旧農林省嬭恋馬鈴薯原産種農場は昭和22年(1947)に設置され、ジャガイモ生産の安定化に貢献してきました。

昭和30年代には食生活の洋風化が進み、おなじみ「豚カツに千切りキャベツ」というスタイルも定着、キャベツは日本で最も消費される野菜の一つになりました。黒ボク土の畑の土壌改良をはじめとする栽培農家の不断の努力が重ねられます。また、国営、県営の農地造成事業で耕地は拡大し、生産量も増大。こうして、夏秋キャベツ全国一の生産量を誇る村へと発展していきました。



昭和40年代の鬼押ハイウェー

### 「農業」と「観光」が二大産業に

高原野菜の栽培で農業の村として発展を続ける嬭恋村。同時に鉄道敷設や道路整備が進んでアクセスが改善し、温泉やレジャーへの注目が高まり、村の観光事業が発展する土台もできあがります。そのきっかけの一つが、草津と軽井沢を結んだ草軽電気鉄道でした。昭和10年(1935)には鉄道省直営の省営バスが渋川〜真田間の運行を開始し、観光バスの路線や自動車専用道路が整備されていきました。

昭和24年(1949)の上信越高原国立公園の指定、昭和30年代のマイカー・レジャーブームやスキー場開設、昭和46年(1971)の吾妻線の村内延伸などが、観光発展の後押しとなり、観光客が増加。観光業が農業に次ぐ主要産業となり、現在は年間200万人の観光客が訪れています。

### キャベツ畑が広がるパノラマライン周辺の見どころ

つまごいパノラマラインは農作業優先の道路のため、「農家ファースト」であることをお忘れなく。キャベツ畑に無断で入ることもやめましょう。(北ルート:12月~4月初旬まで通行止め) 【\*】は、現在訪ねることができません。道迷い歴史を紐解いてください。



フェロゾーカレンダー「嬭恋村暮らしごよみパノラマラインと農業・観光」2024年3月発行

## タカラモノ 嬭恋の高原野菜たち

**キャベツ**  
嬭恋村の6~9月の平均気温、15~20℃という涼しい気候や程よい雨量、昼夜の寒暖差がおいしいキャベツを育てます。村内では35種類ほどの品種が栽培されています。夏~秋に出荷される首都圏のキャベツの8割を嬭恋産が占めています。

**ジャガイモ**  
ジャガイモは江戸時代に越後から嬭恋に伝えられ、冷涼高地に適し、軟化作物としても栽培が広まったといわれています。嬭恋村では、コロケやポテトサラダに適した「男爵」や「ワセシロ」が中心に栽培されています。昼夜の寒暖差が生み出すデンプン質の高さが、おいしさの秘訣です。

**くろこ**  
ジャガイモからデンプンを絞り、こしとった繊維分を凍結・発酵・乾燥させた郷土食材。水で溶いて味噌やネギを加え味付けて揚げたり、蕎麦粉を加えて焼いたりして食べます。令和4年度(2022)には文化庁の「100年フード」に認定されました。「嬭恋村くろこ保存会」が普及に努め、村内の食堂でも提供されています。

**トウモロコシ**  
地元では「とうきみ」とも呼びます。夏の降水量と昼夜の寒暖差から、スイーツのような甘さとみずみずしさが生まれます。生でもおいしい真っ白な「ピュアホワイト」など、新種のトウモロコシも栽培されています。採れたての生トウモロコシは一度食べたら忘れられないおいしさです。

**花豆**  
花豆の名で親しまれるベニバナインゲンは、標高700~800m以上の高地でないと大きな実が付きません。栽培にも手間がかかる貴重な高原野菜です。インゲンの途中で紅くきれいな花を咲かせ、10月中旬に収穫されます。特徴は、大粒(直径3cmほど)の食べ応えと、やさしい甘み。地元では、煮豆や甘納豆にしています。

**おいしいお米・「嬭恋米(鎌原米)」**  
「嬭恋米」は、おいしい米づくり研究会が大切に育てる希少なお米です。国際コンクールで受賞、令和2・5年(2020・2023)には「皇室献上米」に選ばれました。天明3年の浅間山噴火で被害を受けた鎌原地区が復興した今、よみがえらせた田んぼで栽培されるお米です。

## 季節のイベント

**安市**  
三原地区の商店街で、桜並木が見頃を迎える4月29日に開催。歩行者天国には苗木や植木、花、農具、金物など、50店舗ほどが出店します。厳しい冬の寒さから解かれ、春の訪れを喜びあうようなぎやかなムードの1日になります。

**つまごい祭り**  
昭和56年(1981)に始まった夏の嬭恋村を代表する行事で、7月末に開催。マスのつかみ取りや鉄砲隊の演奏、和太鼓披露など伝統文化の体験参加や公開が行われ、打ち上げ花火が夜空を飾ります。第40回となった令和5年(2023)はFMぐんまの公開生放送も行われました。

**嬭恋高原キャベツマラソン**  
6月末~7月上旬に開催。アップダウンの激しいパノラマライン北ルートがコースとなり、日本一ハードなマラソンといわれています。キャベツ畑の美しい風景に癒される人気の大会です。

**キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ**  
日本武尊が亡き妻に愛を叫んだ伝説が残る嬭恋村。9月上旬に愛妻の丘で開催される通称「キャベチュー」は、夫から妻への感謝や愛の言葉を叫ぶイベントで15年以上続いています。愛妻の丘から見る山々と広大なキャベツ畑は壮観で、パノラマラインの名所になっています。

**田代地区の村おこし花火大会**  
令和2年(2020)から田代地区で開催されている花火大会です。30分で1,000発ほどが打ち上げられます。目玉は、20号玉の「キャベツ千輪」。世にも珍しいキャベツを模したオリジナル花火です。キャベツの収穫が終わる11月の夜空に華を添えます。

**上信鉱山・浦倉鉱山**  
山が移動した。耐火煉瓦の原料となる石炭を採掘する鉱山が住む鉱山には2,000人が住み、昭和46年(1971)の閉山まで小規模な町が栄えた。草津、石津の麓にあり、冬は山が移動した。耐火煉瓦の原料となる石炭を採掘する鉱山が住む鉱山には2,000人が住み、昭和46年(1971)の閉山まで小規模な町が栄えた。

**硫黄鉱山**  
写真は無毛峠付近にある小規模な町が栄えた。草津、石津の麓にあり、冬は山が移動した。耐火煉瓦の原料となる石炭を採掘する鉱山が住む鉱山には2,000人が住み、昭和46年(1971)の閉山まで小規模な町が栄えた。

**「バラギ湖」の四季折々の魅力**  
夏は平均気温が20℃前後と涼しい別荘地として知られる。冬は湖が凍り、スキー場として利用される。春は桜が咲き、夏は避暑地として人気がある。

**避暑を楽しむ「別荘地」**  
避暑地として知られる。冬は湖が凍り、スキー場として利用される。春は桜が咲き、夏は避暑地として人気がある。

**「キャベツ畑」の風景**  
嬭恋村では500軒ほどの農家が夏のキャベツを栽培し、夏から秋にかけて収穫される。美しい風景を堪能できる。

**「スキー場」**  
嬭恋村にはスキー場があり、冬はスキーを楽しむことができます。美しい雪景色を堪能できる。

# 嬭恋村暮らしごよみ

## パノラマラインと農業・観光



「嬭恋村文化財保存活用地域計画」作成のワークショップで取り組んだフェロゾーカレンダーです。

**嬭恋村の昭和遺産**  
村内には、山の資源を採掘した鉱山跡や、昭和の近代を支えた産業遺産など、昭和の遺産が数多く残っています。昭和の嬭恋村を懐かしめたい。写真家の地区を巡る。昭和の遺産が数多く残っています。

**歴史と泉質を誇る「温泉」**  
村内で最も古い歴史を持つ嬭恋温泉は、奈良時代の開湯ともいわれ、秋キャベツを栽培し、夏から秋にかけて収穫される。美しい風景を堪能できる。

**「キャベツ畑」の風景**  
嬭恋村では500軒ほどの農家が夏のキャベツを栽培し、夏から秋にかけて収穫される。美しい風景を堪能できる。

**「スキー場」**  
嬭恋村にはスキー場があり、冬はスキーを楽しむことができます。美しい雪景色を堪能できる。

**「別荘地」**  
避暑地として知られる。冬は湖が凍り、スキー場として利用される。春は桜が咲き、夏は避暑地として人気がある。

# パノラマラインで巡る嬭恋村